

〔野菜・作物優良品種の選定と育成〕

トマト加温半促成栽培における有望品種

澁澤英城・小寺孝治・沼尻勝人・田邊範子

(園芸部)

【要 約】トマトの加温半促成栽培における有望品種を選定するため、11品種の収量特性および食味を含む品質を調査した。安定・高収量をめざすためには‘桃太郎ファイト、麗容’、初期収量と食味を重視するには‘桃太郎J’、大きな果実を求めるには‘スーパー優美’が有望である。

【目 的】

トマトは都内の作付面積が約90haあり、直売所でも人気の高い主要野菜のひとつである。加温半促成栽培は、露地果菜や水稻の裏作として、市場での単価、直売所の端境期や労働力の分散などを背景に、南多摩地域をはじめ古くから産地が形成されてきた。そこで、本作型に適した有望品種を選定するために品種比較試験を行う。

【方 法】

‘桃太郎ファイト’他10品種を2002年10月28日に播種した。12月25日に条間1.5m、株間40cmの2条植え(3333株/10a)で定植した。施肥は、堆肥2t/10a、苦土石灰100kg/10aを施用後、全量元肥でロング424-180を100kg/10a、化成8号を100kg/10a、熔リンを20kg/10a(10a当たりN:22kg, P₂O₅:24kg, K₂O:22kg)を施用した。最低気温を定植日から2月11日まで12℃、以後10℃で管理した。8段花房で摘心した。ホルモン処理にはトマトーン100倍とジベレリン10ppmの混合液を用いた。区制は1区7株の2連制とした。

【成果の概要】

- 1) 上物1果重は‘スーパー優美’および‘サンロード’が約220gと高く、その他の品種は160~190gの範囲である。総収量は‘麗容’が最も高いが、上物収量は‘桃太郎ファイト、麗容、桃太郎ヨーク、スーパー優美、桃太郎J、優美’の順に高くなる(図1)。下物果で最も多いものは、全品種で100g以下の小玉果である。
- 2) 収穫始めは4月上~中旬で、5月上旬までの収量は‘ハウス桃太郎、麗容、桃太郎J、桃太郎ヨーク、スーパー優美’が高い。‘桃太郎ファイト’は全期間を通じ安定した収量が得られる(図2)。
- 3) 全品種で1~3段花房の上物着果数が全上物着果数の過半数近くあるいはそれ以上を占める。‘スーパー優美、サンロード’では6~8段花房の上物着果数が著しく少ないが、その理由は低段位の着果負担によるものと考えられる(図3)。
- 4) 糖度は全品種で5%以上であり、中でも‘優美、スーパー優美’等が高い。食味の評価が高い品種は、癖がなく食べやすい‘桃太郎J’や糖度の高い‘スーパー優美、優美’である。他の品種も「おいしい」と評価されたものがほとんどであるが、‘麗容、桃太郎ヨーク、ろくさんまる’では否定的な評価もみられる(表1)。
- 5) まとめ：トマトの無加温半促成栽培における有望品種は、収量性や品質面から総合的に評価した結果、安定・高収量をめざすには‘桃太郎ファイト、麗容’、初期収量と食味を重視するには‘桃太郎J’、大きな果実を求めるには‘スーパー優美’である。

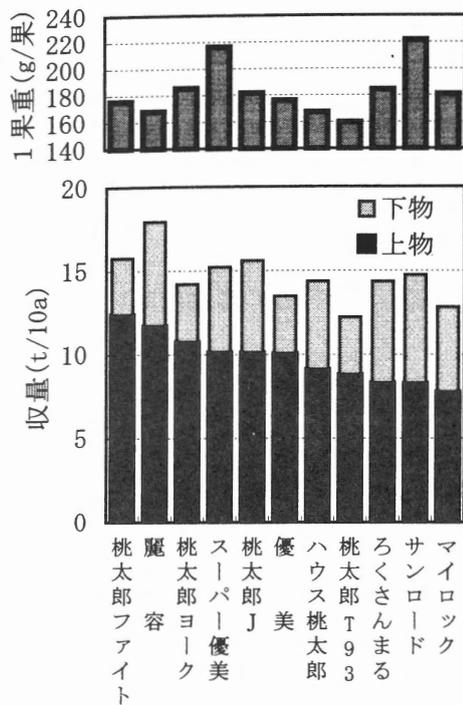


図1 加温半促成トマトの1果重および収量

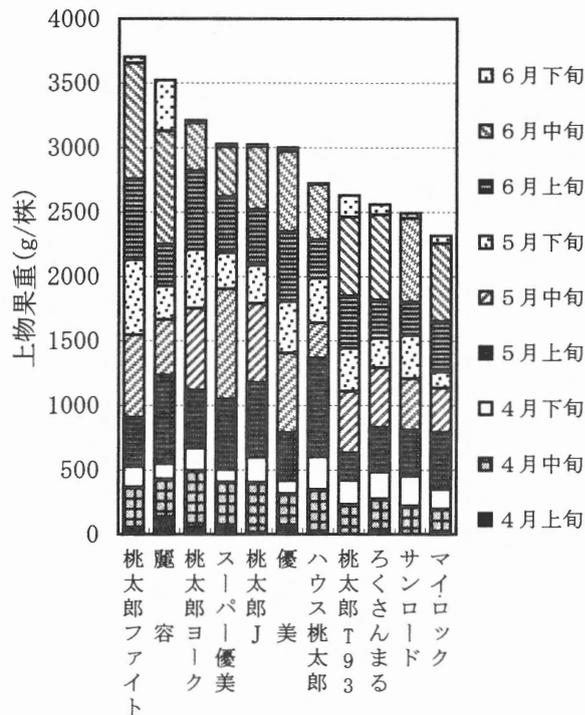


図2 加温半促成トマトの旬別上物収量

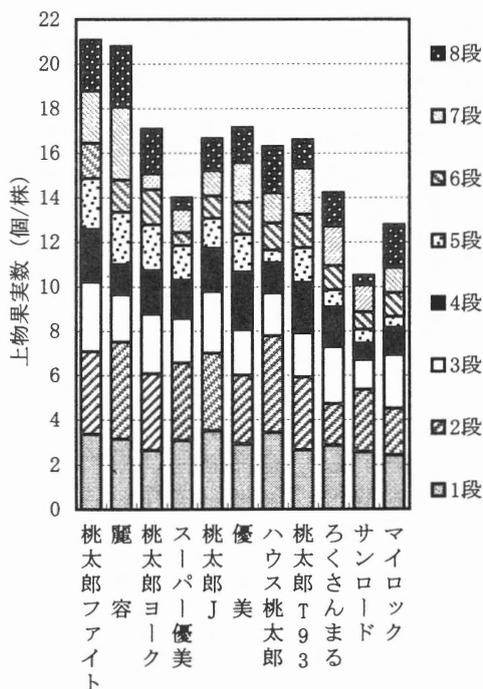


図3 加温半促成トマトの花房段階別上物果実数

表1 糖度および食味評価

品種名	糖度(%) ¹⁾		食味評価 ²⁾	
	I	II	良	否
桃太郎ファイト	5.9	5.3	4	1
麗容	5.7	5.1	4	4
桃太郎ヨーク	5.9	5.6	2	3
スーパー優美	6.2	5.9	9	0
桃太郎J	5.7	5.1	12	0
優美	6.6	6.0	5	0
ハウス桃太郎	5.7	5.2	4	0
桃太郎T-93	6.2	5.6	6	3
ろくさんまる	5.4	5.3	3	2
サンロード	6.1	5.4	3	1
マイロック	6.1	5.6	-	-

1) Iは5月19日、IIは5月23日に測定。

2) 5月19日に実施。パネラー14名のうち、「良(おいしい)」あるいは「否(おいしくない)」と答えた人数。